

平成 24 年度教育方法改善のための自己点検・評価(授業評価等)実施状況調査結果

1. 学生による授業評価

(1) 実施状況

別紙「平成 24 年度授業評価実施状況一覧」のとおり

(2) 実施組織

部局名	大学側(学生側)
大学教育・学生支援機構	大学教育・学生支援機構教育基盤センター教育推進部会
教育学部、教育学研究科	教育学部教務委員会
社会情報学部	教務委員会
社会情報学研究科	大学院学務委員会
医学部医学科	医学科教務部会(学友会授業向上委員会)
医学部保健学科	保健学科教務係
医学系研究科	医科学専攻教務委員会 生命医科学専攻教務委員会
保健学研究科	学務課大学院係
工学部、工学研究科	評価委員会委員(授業改善ワーキンググループ学生委員)

(3) 実施方法

部局名	実施方法
大学教育・学生支援機構	<p>年度当初に実施科目を教育基盤センター運営委員会で選定(24年度は学部別科目, 学びのリテラシー, 学修原論) 開講授業科目担当教員を通じて質問票を学生に配付、回収。 回収した質問票は、外部委託によりデータ集計。</p> <p>上記の実施状況(科目数, アンケート回収枚数)以外 「教養教育全体アンケート」として教養教育科目履修学生全員にアンケート用紙配付 配付方法:必修科目の授業時に配付・アンケート記入後に回収 回収枚数:996枚 回収した質問票は、外部委託によりデータ集計。</p>
教育学部、 教育学研究科	<p>授業時に各教員がアンケート用紙を配付し、学生が回収して教務係へ提出する。 なお、このアンケートによる評価になじまない実験、実技、実習などの講義以外の授業では、別途「授業改善報告書」を提出させた。</p>
社会情報学部、 社会情報学研究科	<p>前後期の授業終了時にアンケート用紙を配付し、回収した。</p>
医学部医学科	<p>医学科の学生自治組織である学友会に設置している授業向上委員会が主体となり、各学年に対してアンケートを実施、回収・集計結果を医学科教務部会へ報告している。</p>
医学部保健学科	<p>各授業担当者から受講学生にアンケート調査表を配布し、記入の上、保健学科教務係へ提出する。</p>

医学系研究科	<p>医学基礎技術実習については Basic 実習4科目を対象として実施、生命倫理公開セミナーについては2科目を対象として実施している。配付は各教員が授業時に行い、回収は大学院係で行った。</p> <p>また、生命医科学専攻の1年次開講科目(学部との共通科目以外の科目)である2科目について実施し、配布は各教員が授業時に行い、回収は大学院係で行った。</p>
保健学研究科	<p>学務課大学院係が作製し、授業最後に教員が配布して退出 その後、学生各自、或いは学生が取りまとめて学務課へ提出</p>
工学部、 工学研究科	<p>前期・後期で、学部・大学院のうち1科目以上は全教員が授業改善のためのアンケートを受けることとした。大学院については、原則全科目で実施することとした。詳細な実施方法は、各学科・専攻で決定したが、主に学生側にアンケート用紙の回収等を行うワーキンググループを組織してもらい、これが主体となって実施した。各教員はアンケート結果に基づいて、学生に回答するためのリアクションペーパー等を作成した。</p> <p>また、これと並行して教員相互の公開授業を実施した。</p>

(4) アンケート結果に基づく自己点検・評価(教育方法の具体的な改善事例など)(*)

部局名	教育方法の具体的な改善事例など
大学教育・学生支援機構	<p>「学部別科目」での学生アンケートを昨年度に引き続き実施した。昨年度との比較ができた。そのなかで、高校での履修内容への配慮や学生の理解度に応じた授業内容の必要性が明らかとなった。これらのアンケート結果を個々の教員にフィードバックすることで、今後の授業内容等の改善が期待される。</p> <p>「学びのリテラシー」は、今年度試行科目としてはじまったもので、学生アンケートを実施した。本格実施を前に、科目の果たす目的や授業方法の確認ができ、課題も見つけることができたので今後の授業内容等の改善が期待される。</p> <p>さらに、教養教育アンケートでは、総合的な評価では概ね好評であったが、学生がシラバスを履修登録時にだけに活用している状況が判明した。今後、シラバスの活用を促進する方策を検討する必要がある。</p>
教育学部、 教育学研究科	<p>各教員はアンケートの集計結果を基に、次回以降の講義に反映させており、概ね効果は上がっていると判断できる。</p>
社会情報学部、 社会情報学研究科	<p>授業評価アンケートの結果を踏まえ、教員は授業内容や授業方法等を改善することとしている。</p> <p>また、大学院において平成24年度入学生に対し情報入手媒体等のアンケートを実施し、その結果を踏まえ、大学院の広報について改善を行った。 (①リーフレットを学生確保の観点から見直した、②ホームページから出願資料がダウンロードできるようにした等)</p>
医学部医学科	<p>アンケート集計結果は、教務部会に報告の後、例年実施しているFDで公表して今後の授業内容向上のための参考としている。</p> <p>アンケート自体は学生主体で行っており、学生の自由な意見を拾い上げているので、学生の本音が反映されているものである。</p> <p>このため、年2回行われている学友会との懇談会でも活発な意見交換が可能となっている。</p>

医学部保健学科	毎年2回の保健学教育ワークショップを実施している。
医学系研究科	アンケートによるフィードバックは授業担当教員までであり、授業の改善に役立っているが、医科学専攻教務委員会・生命医科学専攻教務委員会でアンケートの内容について審議し、シラバスの向上に活かす方向で検討中である。
保健学研究科	書式の決まった回答以外に、自由記述の欄を多くとり学生の素直な意見をまとめ、教務委員会で報告した。
工学部、 工学研究科	改善を希望する点が詳しく書かれているので、教員にとって授業改善の参考になると考えられる。問題のある講義はほとんど見られず、数年前と比較して授業がかなり改善されている。 アンケート結果のフィードバックについては、各学科・専攻内での「学生との懇談会」を中心に行われている。

2. 学生との懇談会

(1) 実施状況

部局名	名称	実施月日	大学側 参加者数	学生側 参加者数	内容
大学教育・学生支援機構	学生と学長との懇談会	H24.7.10	15	140	学生から意向・要望を聴取
教育学部、 教育学研究科	学部長との懇談会	H25.1.29	6	6	学生生活、学習環境など
	院生との懇談会	H25.2.19	9	11	カリキュラム、学習環境など
社会情報学部、 社会情報学研究科	学部長と学生との懇談会	H24.10.31	10	5	学部長(他の教員含む)と学生とで懇談を行った。
	研究科長と大学院生との懇談会	H25.1.25	4	3	研究科長(他の教員含む)と大学院生とで懇談を行った。
医学部医学科	学友会との懇談会	H24.7.9	23	19	教育課程・施設等の要望事情聴取・意見交換
	学友会との懇談会	H25.1.21	21	17	教育課程・施設等の要望事情聴取・意見交換
医学部保健学科	学友会との懇談会	H24.6.20	25	14	教育課程・施設等の要望事情聴取・意見交換
	学友会との懇談会	H24.12.3	21	16	教育課程・施設等の要望事情聴取・意見交換
工学部、 工学研究科	学生との懇談会 (社会環境デザ)	H24.7.18	5	4	授業アンケート結果についての意見交換

イン工学)					
意見交換会(応用化学・生物化学)	H24.8.22	2	5	授業改善のために学生側から問題がある点を自由に挙げてもらうための、ワーキンググループ代表者(2年生、3年生)と専攻長との意見交換	
学生との懇親会(情報工学)	H24.9.21	1	10	授業アンケート結果についての意見交換	
授業評価懇親会(電気電子工学)	H24.10.23	1	8	授業アンケート結果についての学生委員との意見交換	
学生との懇談会(生産システム工学)	H24.10.31	4	14	授業アンケート結果についての意見交換	
授業アンケート報告会(3年生)(応用化学・生物化学)	H24.11.1	19	34	3年生前期のアンケート集計結果と教員からの回答についての学生委員の報告及び担当教員のコメント	
授業アンケート報告会(2年生)(応用化学・生物化学)	H24.11.6	20	18	2年生前期のアンケート集計結果と教員からの回答についての学生委員の報告及び担当教員のコメント	
授業アンケート報告会(2年生)(応用化学・生物化学)	H25.1.22	21	20	2年生後期のアンケート集計結果と教員からの回答についての学生委員の報告及び担当教員のコメント	
授業アンケート報告会(3年生)(応用化学・生物化学)	H25.1.24	17	35	3年生後期のアンケート集計結果と教員からの回答についての学生委員の報告及び担当教員のコメント	
工学研究科長等と学生との懇談会	H25.1.30	2	8	大学全体についての懇談	
学生との懇談会(社会環境デザイン工学)	H25.1.30	4	3	授業アンケート結果についての意見交換	
学生委員へのインタビュー(機械)	H25.3.21	1	4 (大学院3)	授業アンケート結果についての学生委員と	

	システム工学)			名, 学部1名 (FLC 学生))	の意見交換(その他 FLC について)
	学生との懇親会 (情報工学)	H25.3.22	1	10	授業アンケート結果についての意見交換

(2) 懇談会での意見に基づく自己点検・評価(教育方法の具体的な改善事例など)(*)

部局名	教育方法の具体的な改善事例など
大学教育・学生支援機構	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の新書を充実、読書は幅広い教養を身に付ける上で重要であることから、大学としての新書をはじめとする図書資料の充実を図る計画を進めることにした。 ・9月入学導入の検討状況について、9月入学を導入するか否かについては、今現在回答できないが、高校卒業後の3月から9月までの学生の過ごし方、経済的問題や、一方、各種国家試験の実施時期など、今後、社会との関係をみながら調整していきたいと考えている。
教育学部、教育学研究科	[院生との懇談会]学生から、「年度初めに年間の履修届を提出するが、後期の履修計画を変更したい場合に認めてほしい」旨の要望があった。従来から必要がある場合の変更を認めているので、2013年度からはその旨を周知徹底することとした。
社会情報学部、社会情報学研究科	学生からの要望や希望等を踏まえて学修環境の整備・改善を行った。(①履修届提出前の聴講期間を十分に取れるよう配慮することとした、②駐車場の外灯の消灯時間を講義の時間帯に合わせた等)
医学部医学科	懇談の結果、以下のことが実現した 体育館アリーナ壁面補修、トレーニングマシン更新、ロッカー室へのカーテン設置、武道場へのヒーター設置、証明書自動発行機の稼働開始時間繰り上げ
医学部保健学科	懇談の結果実現したもの トイレの換気扇故障の修理、教室のプロジェクタの画面調整、保護者への成績送付
工学部、工学研究科	<ul style="list-style-type: none"> ・学生からの意見・要望を各教員に周知し、授業改善に役立てている。 ・学生側からアンケート結果と教員からの回答の開示を求める声が多くあり、専攻内で議論した結果、平成24年度後期分より、専攻事務室で紙媒体のものを学生が自由に閲覧できることになった。(応用化学・生物化学科・専攻) ・改組に関する質問(太田キャンパスの教員や研究室はどうなるか、入学試験はどうなるかなど)が集約され、募集要項などに反映された。(生産システム工学科・専攻)

3. FD 活動

(1) 実施状況

部局名	実施組織	名称	実施月日	教員参加者数	内容
大学教育・学生	大学教育・学	全学 FD 連続講演	H25.1.25	87	グローバル人材育

支援機構	生支援機構 教育基盤センター	会「大学教育のブランドデザイン」⑤ 「新潟大学におけるグローバル人材育成の現状と課題」			成推進事業に積極的に取り組まれている、新潟大学の阿波村稔教授に講演いただいた。
	大学教育・学生支援機構 教育基盤センター	ベストティーチャー 賞選考のための公開模擬授業	H24.5.11	58	各部局から推薦された最優秀賞候補者6名による公開模擬授業を実施した。
	大学教育・学生支援機構 教育基盤センター	教養教育ベストティーチャーによる公開 模擬授業	H24.10.18 ～ H24.12.10	4	昨年に引き続き、教養教育ベストティーチャー優秀賞受賞者3名による公開模擬授業を実施した。
	大学教育・学生支援機構 教育基盤センター	第1回「学びのリテラシー」FD	H24.9.24	45	今年度試行科目として実施した「学びのリテラシー」の前期授業が終わったところで担当した教員と受講した学生を招いて発表会を実施した。
	大学教育・学生支援機構 教育基盤センター	第2回「学びのリテラシー」FD	H25.3.18	46	来年度から本格実施となる「学びのリテラシー」の授業方法について確認した。
	大学教育・学生支援機構 教育基盤センター	英語教育FD	H24.4.18	35	実例発表を通して今後の英語教育方法の改善について確認した。
	教育学部、 教育学研究科	教育学部	特設の授業公開 (前期)	H24. 7. 2 ほか	8
教育学部		特設の授業公開 (後期)	H24.11. 2	21	授業の参観及び授業研究会

	教員養成 FD センター	新任教員研修会	H24.4. 3	11	教育学部の新任教員に対し、本学教育学部の歴史、組織、特色、本学の取り組み、附属学校園の役割、教員養成のしくみ、教育学部のおかれている現状等の研修会を行った。
	教員養成 FD センター	教育サロン	H24.7. 5 H24.7. 9 H25.1. 8 H25.1. 9	7 5 5 7	教育学部の教員として、小中学校の教育現場が抱える課題についてどのように関わるべきか等を話しあった。
	教員養成 FD センター	附属四校園の教員 に対する研修会	H24.8. 3 H24.8.22 H24.11.16 H25.1.10	32 28 8 24	教員養成改革の動向、本学教職大学院の特色、群馬大学教育学部のミッション、学部と附属の連携等についての研修会を開催した。
	教員養成 FD センター	学校見学会	H25.1. 15	6	先進的学校建築を生かした自主的な学びの協同学習を推進している茨城県日立市立駒王中学校を視察した。
社会情報学部、 社会情報学研 究科	FD 専門委員会	公開授業	H25.1.25	4	「リスクマネジメント論」
	FD 専門委員会	公開授業	H25.1.28	20	「歴史情報論 B」
	企画広報室	有識者懇談会	H24.12.12	14	「起業家から見た現代の大学」
医学部医学科	医学教育センター	医学教育教授法ワークショップ	H24.12.8	125	【第1部】教員の教育業績評価について 【第2部】診療参加型臨床実習のさらなる充実を目指して
医学部保健学科	教育課程専門委員会	保健学教育ワークショップ	H24.9.4	69	ベストティーチャー賞受賞者による公

					開模擬授業
	教育課程専門委員会	保健学教育ワークショップ	H25.3.1	66	保健学研究・教育センターの活動及び学びのリテラシー全学導入にあたって
医学系研究科	医科学専攻教務委員会	群馬大学大学院医学系研究科医科学専攻・生命医科学専攻FD兼成果報告会	H25.2.13	93	卒前・卒後一貫MD-PhDコースについて
工学部、工学研究科	工学部	ベストティーチャー賞優秀賞受賞者による模擬授業	H24.9.18	96	ベストティーチャー賞優秀賞受賞者による模擬授業
	群馬大学	障害学生への対応説明会	H24.9.18	96	群馬大学障害学生支援室の支援体制について
	群馬大学	ポストドクター・インターンシップ講演会	H24.9.18	96	日立的グループ・グローバル人財戦略
	機械システム工学専攻	FD講演会 DVD版試写会	H24.12.28	5	「復職、復学に向けたサポート、リワークデイケアの実際」中泉メンタルクリニック院長 黒崎氏講演会のDVDを視聴し意見交換を行った。
	機械システム工学専攻	大学生の発達障害に関する講習会	H25.3.21	5	2013年にNHKで放送された大学生・大人の発達障害に関する録画番組4本計100分を試聴し、発達障害を有する学生に対する対処法について研修した。

(2) FD活動に基づく自己点検・評価(教育方法の具体的な改善事例など)(*)

部局名	教育方法の具体的な改善事例など
大学教育・学生支援機構	<ul style="list-style-type: none"> ・FD連続講演会により、先進的な取り組み状況を聴講し、教員個人の教育方法改善の動機付けになった。 ・ベストティーチャー賞関連の公開模擬授業は、新任教員をはじめとする若手教員や優れた授業を行う教員への動機付けになった。 ・英語FDは、実例発表を通して今後の英語教育方法改善の動機付けになっ

	た。
教育学部、 教育学研究科	<p>・対象となった授業の特長を確認し、参加教員が各自の授業に適した形で採り入れた。</p> <p>1. 本年度より、全学の新任教員研修会に加え、教育学部独自の新任教員研修会を開催した。これにより、教員養成システムの現状とその課題、群馬大学の教員養成の特色を速やかに理解してもらうことができた。</p> <p>2. 附属学校教員に対するFD研修会を行うことで、学部と附属学校四校園との連携、相互理解が深まった。</p> <p>3. 教育サロンを開催し、学部教員と附属学校教員が教員養成に関わる課題、学校現場が抱える課題を自由に討論することで、教育実習生の教育における連携を深めることができた。</p>
社会情報学部、 社会情報学研究科	<p>・終了後の意見交換</p> <p>・教員各自の授業方法への反映</p>
医学部医学科	<p>学友会授業向上委員会から選出された教員による模擬授業を行うことにより、学生にとっての分かりやすい授業方法を参加教員に対し、認識・啓発することができる。また、その模擬授業のアンケートも実施することで、改善点等の再認識の一助になると考える。</p> <p>第二部では、外部講師を招き、診療参加型臨床実習導入の意義やポイント、他大学の臨床実習の現状を詳細に解説していただき、診療参加型臨床実習の重要性を認識することができた。</p>
医学部保健学科	<p>ベストティーチャー賞受賞者による公開模擬授業を実施して、各教員の授業方法・質の向上に努めている。単なる模擬授業ではなく、授業実施に当たっては如何に学生に興味を持たせるか。また如何に内容を理解することができるようにできるか。このようなことを念頭に置き、要点をおさえ丁寧に説明するなど、ベストティーチャー賞受賞者が特に留意している点を中心に講義をしてもらった。</p> <p>また、ワークショップでは、新たに設置された「保健学教育・研究センター」の活動内容及び平成25年度から実施する「学びのリテラシー」について共通認識を図るとともに全教員に周知することを目的に実施した。</p>
医学系研究科	<p>本年度のFDは、平成24年度大学改革推進等補助金(大学改革推進事業「基礎・臨床を両輪とした医学教育改革によるグローバルな医師養成」)に採択された「医学・医療の高度化の基盤を担う基礎研究医の養成」に基づき設定した「卒前・卒後一貫 M.D.-Ph.D コース」のキックオフシンポジウムとして開催した。医科学専攻教務委員長からこのコースの概要の説明が行われた後に、シンガポールの Duke-NUS の Shenolikar 教授から Duke-NUS における先進的な大学院教育プログラムの概要の紹介、米国 Harvard Medical School の学生である Erin Loeliger 氏から the Harvard/MIT MD-PhD Program (彼女自身がこのプログラムの学生である)の概要の紹介があり、活発な質疑応答が行われた。また学外の評価員である松井秀樹教授(岡山大学大学院医歯薬学総合研究科)から、本学のコースに関するコメントもいただいた。これらの討論及びコメントを今後の大学院教育の更なる充実化に生かす予定である。</p>
工学部、工学研究科	<p>公開授業については、各教員が報告書を作成し授業改善に活かしている。また、ベストティーチャーによる公開模擬授業も行い、各教員の授業方法</p>

	の改善に役立っている。
--	-------------

4. 学生などの意見調査(在学生、卒業(修了)生、就職先及び保護者など)

(1) 実施状況

部局名	名称	実施月日	対象者 ・人数	内容
教育学部、 教育学研究科	教育に関する現況 調査アンケート	H24.2.1 ～ H24.2.23	学部4年124件、 3年生122件	教員養成課程に関する教育の現況を明らかにするもの
	教育に関する現況 調査アンケート	H24.10.1 ～ H24.11.22	平成19～21年度の学部卒業生85件、大学院修了生40件	教員養成課程に関する教育の現況を明らかにするもの
社会情報学部、 社会情報学研究科	新入生との懇談会	H24.4.5	学生104人 保護者30人	新入生と教員とで懇談を行った。 学部長と保護者とで懇談を行った。
	後援会総会	H24.6.20	保護者68人	後援会総会の中で、保護者と懇談を行う時間を設けた。

(2) 意見調査に基づく自己点検・評価(教育方法の具体的な改善事例など)(*)

部局名	教育方法の具体的な改善事例など
教育学部、 教育学研究科	平成23年度末に実施した学部生を対象としたアンケート調査の結果をまとめて報告書を作成した。3年前の平成20年度の結果と比較して、「授業編成や教育課程」「教育実習等の現場学習」の項目をはじめとして、全般的に評価が高くなっていることを確認した。 平成19～21年度の学部卒業生・大学院修了生を対象としたアンケート調査の結果をまとめて報告書を作成した。前回の平成16～18年度の卒業生との比較では「授業編成や教育課程」「教育実習等の現場学習」の項目、修了生調査との比較では「教育・研究の施設・設備」の項目で評価が向上していること、そのほか全般的に評点が高くなっていることを確認した。
社会情報学部、 社会情報学研究科	保護者からの意見等を踏まえて成績表の配付について検討し、保護者への配付時期を早めるよう改善することとした。

5. その他特記事項

特になし。